

VERITAS™

Truth in Cloud 2019年レポート

1,645 名のクラウドアーキテクトが明らかにするバックアップと
データ保護に関する課題と成功

はじめに

クラウドデータ管理の現状

現在のデータ主導の企業にとって、データ管理・保護対策が十分であるということはありません。複雑さが増す IT システムおよびエンドユーザー、企業、政府機関、規制当局からの圧倒的な期待から、多くの組織は増加するデータを効果的に管理する方法を見いだそうと懸命になっています。さらに現在は、ハイブリッドおよびマルチクラウドソリューションの増加から、IT環境はどうしても複雑なものとなっており、ビジネスにとってメリットであっても、機能の妨げになってしまいます。

クラウドベースの機能の向上に伴い、企業はより多くのデータとワークロードをクラウドへ移行してクラウドホステッドソリューションを活用しており、多面的なデータ管理および保護がかつてないほど重要になっています。

データをどのように/いつ/どこで/なぜ保護するか、そして誰が保護するかという問いへの回答

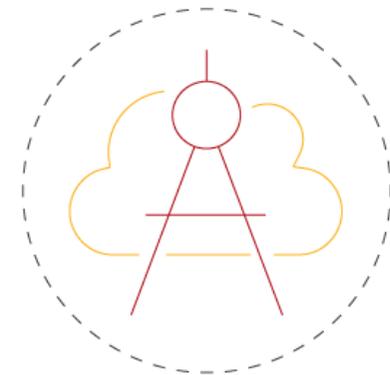
IT チームは、データ破損、人的ミス、自然災害の発生時、さらにはランサムウェアによる攻撃を受けたときに備えて、アプリケーションとデータをリカバリできるようにする必要があり、1 つの失敗がビジネスにとって非常に高くつくことがあるのです。今日、クラウドアーキテクトとクラウド管理者の責任が大きくなり、その多くがデータ保護の管理を期待されており、これらの担当者は、状況をどのように把握し、バックアップおよびリカバリに関する課題にどのように対処するかを理解することが最も重要となります。

IT に関する懸念を浮き彫りにした 2019 年の Truth in Cloud レポート

Cascade Insights 社は、15 カ国 1,645 名のクラウドアーキテクトとクラウド管理者に、バックアップインフラに関する前提とインサイト、およびクラウドデータ保護の将来に関する考えについて調査しました。

Cascade Insights 社による主な調査結果は次のとおりです。

- クラウドアーキテクトとクラウド管理者の大半は、クラウドベースのデータをバックアップする責任がクラウドプロバイダにあると考えています。
- 多くの場合、IT チームは、導入したホステッドクラウドソリューションがオンプレミスソリューションと同じ成果をもたらすことを期待しています。
- クラウドアーキテクトとクラウド管理者は、クラウドが提供するものよりも優れた包括的な単一のツールセットを必要とすることが多く、オンプレミスのワークロードとクラウド間をまたがるワークロードに対応するシンプルなバックアップとリカバリを求めています。
- そして、クラウド内にとどまらず、さまざまなワークロードを管理できるデータ保護ソリューションを必要としています。



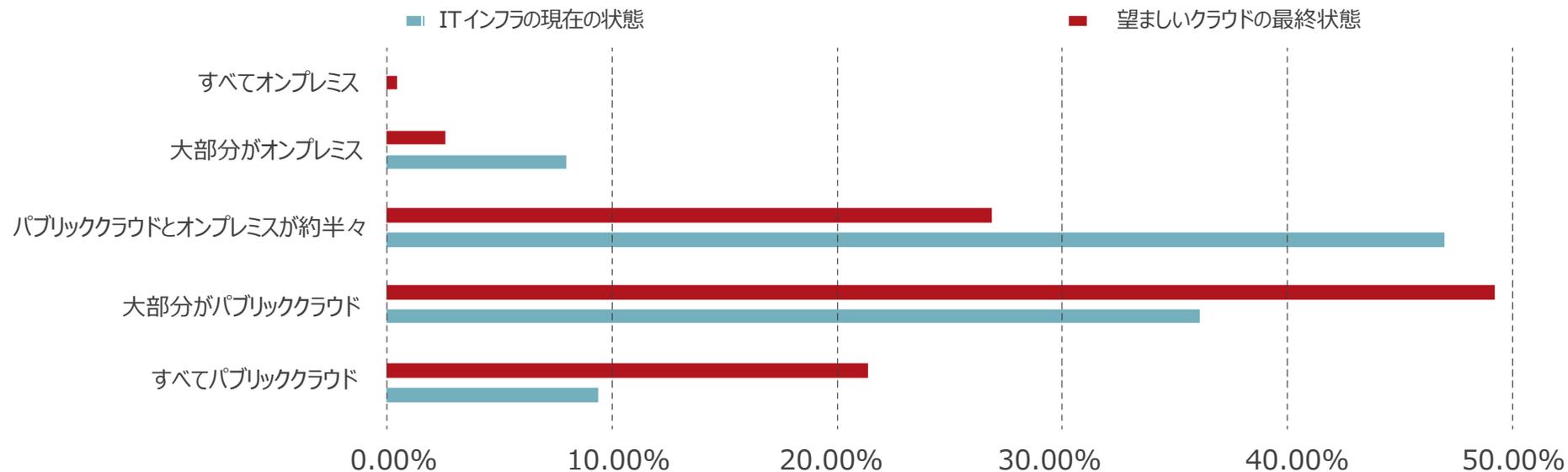


図 1: 調査対象者の 4 分の 3 以上が、ほとんどまたはすべてのアプリケーションをパブリッククラウドインフラで実行したいと回答

ベストプラクティスと調整しながら進化

クラウドアーキテクトの約 50% が自社インフラのほぼ半数がクラウドにあると回答し、77% の回答者が、いずれは大部分またはすべてのアプリケーションをパブリッククラウドインフラで実行することが望ましいと述べています。さらに現在、約 50% の企業がサードパーティ製アプリケーションを使用して、クラウドベースのデータをバックアップしています（図1を参照）

クラウドによるイノベーションが間違いなくあらゆる場所で発生していますが、多くの企業ではクラウドに対応するためのデータ保護のベストプラクティスを定義することに苦心しています。実際、クラウドのバックアップとリカバリに関する質問では、クラウドアーキテクトとクラウド管理者の 34% がクラウドバックアップの責任がクラウドプロバイダにあると回答し、わずか 29% がバックアップを自社の責任であると考えています。また、このグループでは、大部分がバックアップをサードパーティベンダーにアウトソーシングすることを希望しています。

この結果から大きな誤解があることがわかります。クラウドプロバイダがクラウドデータをバックアップすると考えているクラウドアーキテクトとクラウド管理者が 84% にも上ります。企業でクラウドサービスが普及しているにもかかわらず、クラウドベースのデータを管理する担当者的大半が、データの整合性とリカバリの責任の所在を明確に把握できていません (図 2 を参照)。



図 2. クラウドデータのバックアップに関する責任についての質問では、ほとんどがクラウドプロバイダに責任があると回答 (誤った認識)



クラウドでのデータバックアップは お客様の責任

クラウドテクノロジーは絶対的なものではありません。クラウドアーキテクトやクラウド管理者も同様です。ダウンタイムは発生します。データが保護されていない状態でダウンタイムが発生すれば、すべてが失われ、あらゆる業務が停止します。ほとんどの企業にとって、ビジネスクリティカルなデータを損失することは許されません。だからこそ、データ保護について明確にすることが非常に重要なのです。今後起こりうるダウンタイムの脅威からデータを保護する責任はお客様にあります。クラウドプロバイダだけの責任ではありません。

この懸念は回答にも現れています。クラウドアーキテクトとクラウド管理者の 46% が、オンプレミスのワークロードとクラウドベースのワークロードに同じバックアップソリューションを使用したいと考えている一方で、実際にこれを実現できているのは少数です (図 3 を参照)。実績のある堅牢なデータ保護ソリューションを導入する重要性は理解していると考えられますが、クラウドネイティブのオプションに依存したままというのが現状です。

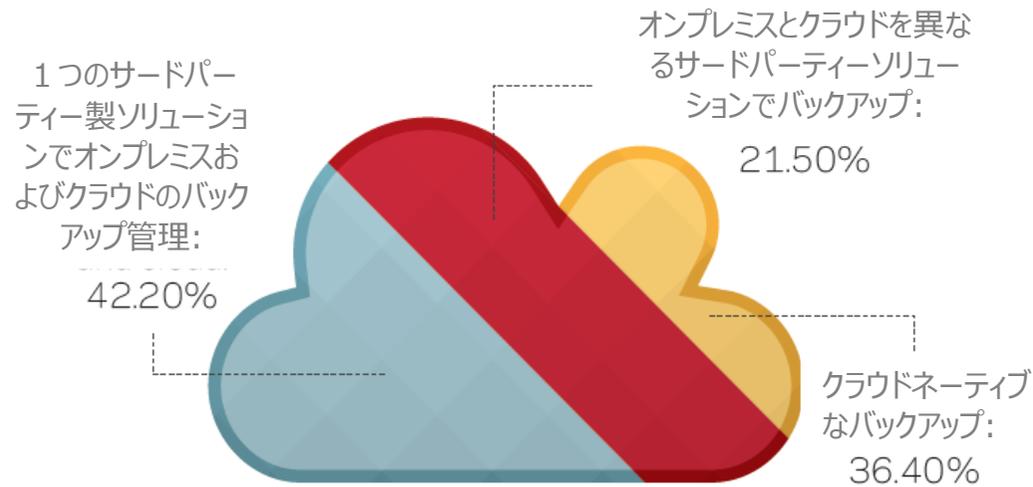


図 3. ほとんどの回答者が 1 つ、または複数のサードパーティ製ソリューションを使用してオンプレミスとクラウドのバックアップを管理



図 4. バックアップソリューションに求める最も重要な条件とクラウドの全体的な利点が合致

最小限のデータ保護では十分でないというニーズ

調査の回答者はクラウドネイティブのバックアップとスナップショットに関心を示していますが、たとえば、データ保持ポリシーの規定やマルチクラウドでのバックアップのオーケストレーションといった真のデータ管理は、サードパーティのバックアップおよびリカバリソフトウェアで実現することが望ましいとわかっています。特に、これらの回答者はクラウドの提供ベンダーに縛られることに不安を抱き、別のクラウドプロバイダに容易に移行できる状態を維持したいと考えています。

クラウド導入の増加と、クラウドデータ保護ソリューション予算の増加

クラウドデータ管理に関する懸念が明らかであるにもかかわらず、クラウドアーキテクトとクラウド管理者のほとんどは、利用しているバックアッププロバイダに満足しており、ソースにかかわらずデータ管理を同じカタログで整理できる軽量ソリューションの価値を評価すると回答しています。彼らは、新しいクラウドリソースを自動検出し、確実に保護するソリューションに関心を示しており、そのためならコストも負担するでしょう。彼らの大半は、バックアップとリカバリの予算が今後 3 年間で大幅に増加すると見込んでおり、最も回答の多かった増加率は 15% でした。(図 6 を参照)

データ保護の予算を増やしている複数の要因

- 様々な国や地域における規制の変更によって、データの保持期間を長くする必要が生じ、最終的にストレージ要件に影響を及ぼしています。
- 企業は、単一のバックアッププロバイダを使用することに対する不安から、リスクを軽減するために複数のプロバイダを利用しています。
- データの継続的な増加により、データの増加に合わせて拡張できるソリューションが必要です。

企業のIT環境がよりヘテロジニアスになるのに伴い、ベンダーが重要視すべき主な領域

- 常に変化する環境の中でプロバイダが行う製品サポート: これは、ユーザーの変化する関心とニーズを理解して追随するというコミットメントを示すものです。
- API フレームワーク: 企業内のシステムが相互接続されていることから、重要性が高まっているリソースです。
- 柔軟性: これにより、製品が変化するワークロード要件に対応し、同じレベルのサービスを維持しなければなりません。
- 稼働率の目標達成における信頼性: 現在、事業継続は選択の余地のない成功条件です。

クラウドの価値提案に合わせたバックアップソリューションの選択

サードパーティのバックアップ/リカバリプロバイダが、現在のクラウドアーキテクトとクラウド管理者が持つ関心とニーズに適切に対応するには、以下のようなクラウドの価値提案と足並みを揃える必要があります。

- **拡張性** — クラウドの利点の 1 つは拡張性です。適切に設計されたアプリケーションは、ほぼ無限のワークロードを処理できます。IT チームも、容易に拡張できるバックアップ/リカバリソリューションを必要としています。
- **堅牢な API** — オンプレミスの管理が自動化および統合されていたとしても、API を使用すればすべてのクラウド管理を行うことができます。IT チームは、バックアップ/リカバリソリューションをパイプラインアプリケーションおよび DevOpsの自動化と連携させたいと考えています。
- **監視と分析** — クラウドワークロードを確認して、バックアップの正常な完了やデータの迅速かつ確実な復元を把握できることが求められています。
- **クラウドマーケットプレイスでの提供** — クラウドマーケットプレイスは、クラウドプロバイダのサービスを補完するソリューションを見つけるための重要なリソースです。クラウドアーキテクトとクラウド管理者は、クラウド対応のバックアップ/リカバリソリューションを見つけるためのリソースに関心を持っています。図5 ではサードパーティプロバイダがクラウド環境で付加価値を提供するための 6 つの方法を示しています。

クラウドではすべてが トランザクション単位

企業はクラウドプロバイダが提供する機能しか利用できず、クラウドプロバイダが保証するのは、確実に実現できるレベルのアップタイムです。大部分の企業にとって99.99%のアップタイムでは不十分であり、目標は高くなっています。実際、クラウドアーキテクトとクラウド管理者の53%が、99.99%以上のアップタイムを掲げています。クラウドデータ管理および保護ソリューションを提供する企業が顧客の期待に応え、競争力を維持するには、現在の高可用性の要件を確実にサポートする必要があります。

53.3%

のクラウドアーキテクト/
管理者が、99.99%以上の稼働時間目標を
挙げています。

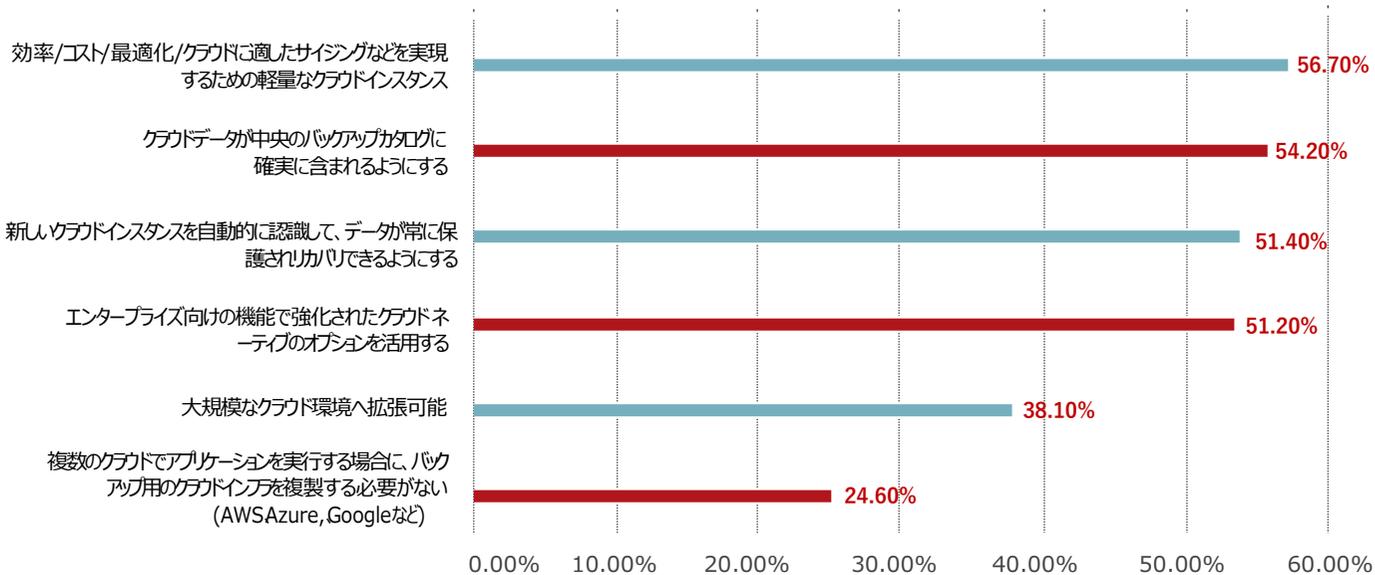


図5、サードパーティプロバイダがクラウド環境で付加価値を提供するための6つの方法

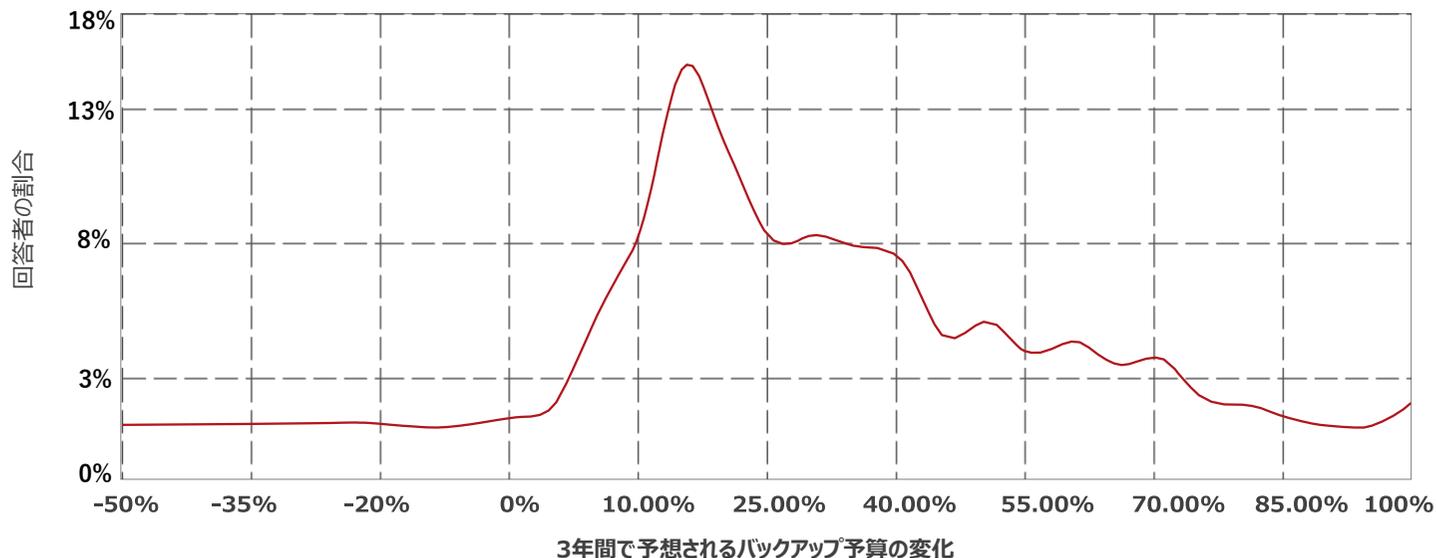


図6、大半の回答者が、バックアップおよびリカバリの予算が増加すると予想

データ保護の予算を増やしている複数の要因

- 規制の変更 (特に EU) によって、データを長期間保持しなければならない状況が生まれ、これに伴い、ストレージへのニーズが増加しています。
- 企業は、単一のバックアッププロバイダを使用することに対する不安から、リスクを軽減するために複数のプロバイダを利用しています。
- あらゆる企業でデータが継続的に増加しており、データの増加に合わせて拡張できるソリューションが必要です。

鍵はリカバリ能力：企業が求めるのは、過去のクラウドデータをリカバリできる機能

クラウドアーキテクトとクラウド管理者は、データを少なくとも 10 年前まで遡ってリカバリできることを求めています（図 7を参照）、現在、その目標を達成できているのはわずか 13% です。クラウド利用の増加により、将来的にはより多くのデータの保存とカタログ化が必要になります。また、今後は“スマート”なデータ管理ポリシーによって、オンプレミス（SSD、HDD）およびクラウドストレージ（オブジェクトストレージ、長期ストレージ）で保存するデータが決定されます。

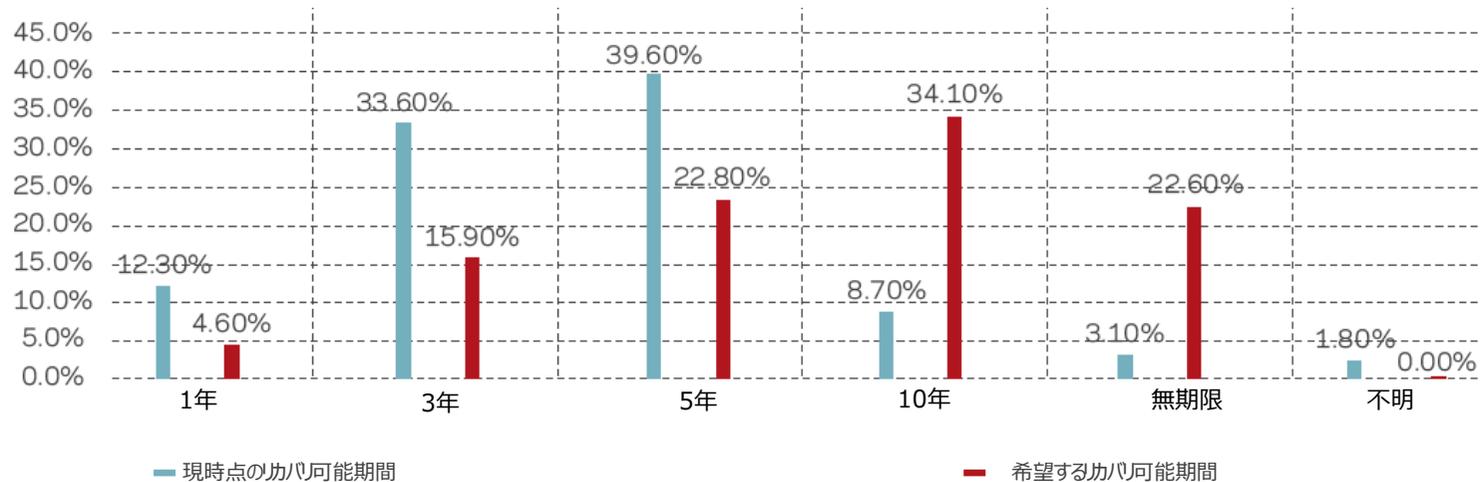


図 7. ほとんどの回答者が、少なくとも 10 年前のデータをリカバリしたいと回答。しかし、ごく一部のみがこれを実現

69%

のクラウドアーキテクトとクラウド管理者が何らかの形でサーバーレスコンピューティングの導入を開始する、または導入を完了する予定です。

サーバーレスコンピューティング導入の増加

今後 12 カ月の間に、69% のクラウドアーキテクトとクラウド管理者が、何らかの形でサーバーレス・コンピューティングの導入を開始する、または導入を完了する予定です。これらのソリューションはクライアントのアプリケーションを管理しないステートレスの傾向にありますが、作成されるデータはバックアップする必要があります。これらのソリューション内のデータは、ディスクやオブジェクトストレージだけでなく、ますます増加するさまざまなデータベース（リレーショナル、NoSQL、時系列、グラフ）に保存されます。バックアップ/リカバリソリューションは、サーバーレスコンピューティングのような新しい開発手法が定着したとしても、さまざまなクラウドストレージオプションの急増に対応する必要があります。

クラウドデータ管理を強化するための戦略

以上のような調査結果が示すように、クラウドへ移行する企業が増えるにつれ、データ管理が目に見えて変化しています。クラウドデータ管理戦略が明確である企業は、長期的により大きな成功を収める可能性があります。なぜならば、彼らは共通する将来のITの要望 - データがどこに存在するかにかかわらず、データの整合性を確保することができるということに、自信を持って応えることができるようになるからです。

多くの企業にとっての次の最適なステップは、データ管理計画の定義です。市場へのアプローチの変化および拡張性に関する計画に注意を払いながら、クラウドベースのデータを管理するためのベストプラクティスおよびサポートソリューションを見極める必要があります。回答者の大半は現在のベンダーに満足していますが、マネージドサービスが一般的になるにつれ、その多くは機能が豊富な複数環境に対応する機能を備えたバックアップ/リカバリソリューションを求めようになるでしょう。

調査方法

Cascade Insights社は、2019年6月から7月にかけて、米国、イギリス、フランス、ドイツ、スイス、アラブ首長国連邦、カナダ、メキシコ、ブラジル、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、中国、日本、韓国の合計1,645名におよぶクラウドアーキテクトとクラウド管理者に対して調査を実施しました。

ベリタスについて

Veritas Technologiesはデータの可用性および保護のグローバルリーダーです。複雑化したIT環境においてデータ管理の簡素化を実現するために、世界の先進企業50,000社以上、Fortune 100企業の99パーセントが、ベリタスのソリューションを導入しています。ベリタスのエンタープライズ・データサービス・プラットフォームは、お客様のデータ活用を推進するため、データ保護とデータリカバリのオーケストレーションを実現して、ビジネスに不可欠なアプリケーションの可用性を常に確保し、複雑化するデータ規制対応に必要なインサイトを提供します。ベリタスのソリューションは信頼性とスケーラビリティに優れ、500以上のデータソースと60のクラウドを含む150以上のストレージ環境に対応しています。ベリタステクノロジーズ合同会社は、Veritas Technologiesの日本法人です。

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-11-44 赤坂インターシティ4 階
veritas.com/ja/jp

各国オフィスとお問い合わせ先については、弊社のWebサイトを参照してください。
veritas.com/ja/jp/company/contact

VERITAS